

2018年度第2四半期 決算報告書

プレスリリース
2018年8月1日、パリ発



欧州経済の成長を背景に事業が拡大

融資残高：前年同期比 **+3.7%**

国際金融サービス部門(IFS)が高い伸びを示す

国内市場部門(DM)は長引く低金利環境にも関わらず安定推移

ホールセールバンキング事業(CIB)は不利な為替の影響を受けるとともに前年同期と比べて低迷した欧州市場に直面

事業部門営業収益：前年同期比 **+1.0%**

国内市場部門(DM)および国際金融サービス部門(IFS)の専門的金融業務の開発を継続

国内リテールバンキング支店網およびホールセールバンキング事業(CIB)の費用が減少

事業部門営業費用：前年同期比 **+2.8%**

リスク費用は大幅減少

前年同期比 **-14.4%** (29 bp*)

株主帰属純利益は前年同期から安定推移

株主帰属純利益：23億9300万ユーロ

着実な事業成長

堅調な業績と有形自己資本利益率 (ROTE) **11.2%****を達成

* リスク費用 ÷ 期首顧客向け融資残高 (年率換算後のベースポイント) ; ** ROTE: RETURN ON TANGIBLE EQUITY



BNP PARIBAS

The bank
for a changing
world

2018年7月31日にBNPパリバの取締役会が開催され、ジャン・ルミエール会長が議長を務めるなか、当グループの2018年度第2四半期の業績が検討され、当上半期に関わる中間決算報告書が承認されました。

堅調な業績

BNPパリバは当四半期に堅調な業績を収めました。欧州経済の成長を背景に事業開発が順調に進んだ一方で、当四半期の業績は、不利な為替の影響に加え、ホールセールバンキング事業が前年同期と比べて低迷した金融市場の影響を受けたことも反映しています。

営業収益は当四半期に112億600万ユーロとなり、前年同期と比べて2.5%の増収でした。なお前年同期の営業収益には、一時項目として、当グループ自身の債務に伴う信用リスクを反映するための調整額（Own Credit Adjustment: OCA）およびデリバティブに関する債務評価調整額（Debt Value Adjustment: DVA）が合計で-2億ユーロ含まれていたことに加え、ユーロネクスト株の売却による譲渡益+8500万ユーロが含まれていました。

事業部門の営業収益は、不利な為替の影響を受けて前年同期比1.0%の増収に留まりました。これを部門別にみると、国内市場部門¹では、長引く低金利環境のマイナス影響を、順調な事業開発（とりわけ専門的金融業務）の効果で一部打ち消しましたが、全体として0.3%の小幅減収でした。国際金融サービス部門では、事業開発が業績を押し上げて、営業収益は前年同期比8.7%の大幅増収を果たしました。一方、ホールセールバンキング事業（CIB）では、欧州市場が前年同期と比べて低迷したことから、営業収益は前年同期比6.8%の減収となりました（なお、為替の影響および前年同期に計上された譲渡益を除くと、当四半期の営業収益は1.6%の減収）。

営業費用は、当グループ全体で73億6800万ユーロとなり、前年同期と比べて4.2%増加しました。なお当四半期の営業費用には、一時項目として、事業改編費用および買収に関わる事業再編費用²が、合計で2億7500万ユーロ含まれていました（前年同期は1億6800万ユーロ）。

事業部門全体では、営業費用は当四半期に前年同期比2.8%増加しました。これを部門別にみると、国内市場部門¹では、専門的金融業務の事業開発がコスト増要因となった一方で、国内リテールバンキング支店網（フランス、ベルギー、イタリア、ルクセンブルク）の合理化でコスト節減を果たしたことから、全体では前年同期比1.6%の増加に留まりました。国際金融サービス部門では、事業の成長に伴い前年同期比7.1%増加しました。一方CIBでは、コスト節減策が奏功し、前年同期比で0.9%減少しました。

これらを受けて、当グループの営業総利益は38億3800万ユーロとなり、前年同期と比べて0.7%減少しました。なお事業部門だけをとると、前年同期比1.7%の減少でした。

リスク費用は、当四半期に5億6700万ユーロで（前年同期は6億6200万ユーロ）前年同期と比べて14.4%の大幅減少となり、顧客向け融資残高の29bp相当でした。このような低水準にはとりわけ、ローンオリジネーション業務でリスク管理効果が発揮されたことに加え、低金利環境、および、イタリアで引き続き貸付ポートフォリオの質が改善していることが反映されています。

当四半期の営業利益は、グループ全体で32億7100万ユーロとなり（前年同期は32億500万ユーロ）、前年同期から2.1%増加しました。なお事業部門だけをとると、営業利益は前年同期比1.6%減少しました。

営業外項目は、当四半期に1億8200万ユーロの利益となりました（前年同期は2億5600万ユーロの利益）。

これらを受けて、当四半期の税引前利益はグループ全体で34億5300万ユーロとなり（前年同期は34億6100万ユーロ）、前年同期から0.2%の若干の減益でした。なお事業部門だけをとると、前年同期比4.0%の減益となりました。

¹ 国内市場部門のプライベート・バンキングの100%を含む（PEL/CELの影響を除く）

² 特にLaSer、BGZ銀行、DABバンク、およびGeneral Electric LLDが影響

以上から、当四半期の株主帰属純利益は 23 億 9300 万ユーロとなり、前年同期の 23 億 9600 万ユーロから安定推移しました。なお、一時項目を除くと前年同期比 0.7%の増益となります¹。

2018 年 6 月末現在、バーゼル 3 全面適用のエクイティ Tier 1 比率²は 11.5%となりましたが、これには IFRS 第 9 号「金融商品」の全面適用が反映されています。また、バーゼル 3 全面適用のレバレッジ比率³は 4.0%となり、流動性カバレッジ比率は 2018 年 6 月末現在で 111%でした。さらに、当グループの即時利用可能な余剰資金は 3080 億ユーロに上りましたが、これは短期資金調達との関係で 1 年超の余裕資金があることを意味します。

1 株当たり純資産額は 2018 年 6 月末現在で 72.4 ユーロとなり（当四半期に 1 株当たり 3.02 ユーロの現金配当を実施後）、2008 年 12 月末からの年平均成長率（CAGR）は 5.0%に相当します。これは当グループが、景気局面を通して継続的に企業価値を創造する能力を有していることを証明しています。

当グループは、2020 年度事業改編計画を積極的に実施しています。同計画は、新たなカスタマーエクスペリエンス、デジタル変革、業務効率化などを目指す意欲的なプログラムです（当四半期のコスト節減額は 1 億 4900 万ユーロに上り、また、2017 年初の計画始動からの累計で 8 億 5800 万ユーロのコスト節減を達成）。

当グループはまた、内部統制およびコンプライアンス体制の強化を継続しています。同時に、意欲的な企業の社会・環境責任（social and environmental responsibility: SER）方針を実施中です。そこでは、サステイナブル・ファイナンスを事業モデルの中核に据えるとともに、倫理的責任、社会・環境に変革を起こすイノベーション、および低炭素経済を推進する重要なイニシアチブを通して、社会にポジティブなインパクトを及ぼすことにコミットしています。

*
* *

2018 年度上半期において、BNP パリバは堅調な業績を収めました。営業収益は 220 億 400 万ユーロとなり、前年同期と比べて 1.0%の減収でした。なお、2017 年度上半期の営業収益には、一時項目として、新韓金融持株会社株およびユーロネクスト株の売却による譲渡益が合計で+2 億 3300 万ユーロ含まれていたことに加え、当グループ自身の債務に伴う信用リスクを反映するための調整額（Own Credit Adjustment: OCA）およびデリバティブに関わる債務評価調整額（Debt Value Adjustment: DVA）が合計で-2 億 700 万ユーロ含まれていました。

事業部門全体の営業収益は、不利な為替の影響を反映して、当上半期に前年同期比 0.2%の若干の減収となりました。これを部門別にみると、国内市場部門⁴では、低金利環境によるマイナス影響を、順調な事業開発による増収効果がほぼ打ち消して、営業収益は前年同期から横ばいでした。国際金融サービス部門では、各業務部門の事業開発が奏功し、前年同期比 6.3%の大幅増収を果たしました。一方、CIB では、前年同期と比べて当上半期の欧州市場が低迷したことを受けて、営業収益は 8.3%の減収となりました（なお、為替の影響を排除し、また 2017 年度第 2 四半期に計上された譲渡益の影響を除くと、当上半期の減収幅は 4.4%に縮小）。

グループの営業費用は、当上半期に 156 億 2800 万ユーロに上り、前年同期と比べて 2.9%増加しました。当上半期の営業費用には、一時項目として、事業改編費用および買収に関わる事業再編費用⁵が、合計で 4 億 8600 万ユーロ含まれていました（前年同期は 2 億 7900 万ユーロ）。

また当上半期の営業費用には、11 億 3800 万ユーロに上る、銀行業務に関わる税金および拠出金が含まれていますが、これは IFRIC 解釈指針第 21 号「賦課金」（以下、「IFRIC21」）に基づき年間の税金および拠出金のほぼ全額を計上したものです（2017 年度上半期は 10 億 6200 万ユーロを計上）。かかる税金および拠出金に含まれる主なものとして、単一破綻処理基金へ拠出された 6 億 800 万ユーロが挙げられます（前年同期は 5 億 200 万ユーロ）。

¹ 一時項目による税引後ベースの影響：2018 年度第 2 四半期は -1 億 9100 万ユーロ；2017 年度第 2 四半期は -1 億 7000 万ユーロ

² 経過措置なしで全ての資本要求指令 4（CRD4）規則を考慮した比率

³ 2019 年に完全施行される CRD4 規則を経過措置なしで全て考慮し、また 2014 年 10 月 10 日付けの欧州委員会（EC）委任法令に基づき算定された比率

⁴ 国内市場部門のプライベート・バンキングの 100%を含む（PEL/CEL の影響を除く）

⁵ 特に LaSer、BGZ 銀行、DAB バンク、および General Electric LLD が影響

なお、一時項目（当上半期は前年同期比 2 億 800 万ユーロ増加）および IFRIC 21 の賦課金（前年同期比 7600 万ユーロ増加）による影響を除くと、当上半期の営業費用の増加幅は 1.1%にとどまり、コスト抑制効果を反映しています。

事業部門全体の営業費用は、当上半期に前年同期 1.8%増加しました（IFRIC 21 の影響を除くと 1.4%の増加）。これを部門別にみると、国内市場部門¹では、専門的金融業務の事業開発がコスト増要因となった一方で、国内リテールバンキング支店網（フランス、ベルギー、イタリア、ルクセンブルク）の合理化でコスト節減を果たしたことから、全体では 2.1%²の増加に留まりました。国際金融サービス部門では、事業の成長に伴い営業費用は 5.5%²増加しました。一方 CIB では、コスト節減策が奏功し、当上半期に 4.1%²の減少を果たしました。

これらを受けて、グループの当上半期の営業総利益は 63 億 7600 万ユーロとなり、前年同期比 9.5%減少しました。事業部門だけをとると、前年同期比 4.1%の減少に留まります（IFRIC 21 の影響を除くと-2.8%）。

リスク費用は当上半期に 11 億 8200 万ユーロとなり（前年同期は 12 億 5400 万ユーロ）、顧客向け融資残高の 31bp 相当でした。このような低水準にはとりわけ、ローンオリジネーション業務でリスク管理効果が発揮されたことに加え、低金利環境、および、イタリアで経済状況が引き続き改善していることが反映されています。

グループの営業利益は、当上半期に 51 億 9400 万ユーロとなり（前年同期は 57 億 9100 万ユーロ）、前年同期と比べて 10.3%減少しました。なお事業部門だけをとると、減少幅は 5.0%へと縮小します（IFRIC 21 の影響を除くと-3.3%）。

営業外項目は、当上半期に 5 億 1500 万ユーロの利益となりました（前年同期は 4 億 2400 万ユーロの利益）。当上半期の営業外項目には、建物の売却による譲渡益 1 億 100 万ユーロが一時項目として含まれていました。

当上半期の税引前利益は 57 億 900 万ユーロとなり（前年同期は 62 億 1500 万ユーロ）、前年同期と比べて 8.1%の減益でした。なお事業部門だけをとると、減益幅は 5.5%となります（IFRIC 21 の影響を除くと -3.8%）。

当上半期の税率は平均で 27.3%となりましたが、これはベルギーおよび米国で実施された法人税の減税を受けて、全体の税率が 2 ポイント低下したことによるものです。

以上から、当上半期の株主帰属純利益は 39 億 6000 万ユーロとなり、前年同期と比べて 7.7%の減益でしたが、一時項目および IFRIC 21³の影響を除くと、減益幅は 1.9%になります。

これらを受けて、当上半期の自己資本利益率（ROE）は 9.6%⁴となりました。有形自己資本利益率（ROTE）は 11.2%⁴でした。

*
* *

¹ 国内プライベート・バンキングの 100%を含む（PEL/CEL の影響を除く）

² IFRIC 21 の影響を除く

³ 一時項目による税引後ベースの影響：2018 年度上半期は -2 億 4600 万ユーロ；2017 年度上半期は -9400 万ユーロ

IFRIC 21 に基づく税金および拠出金の税引後ベースの影響：2018 年度上半期は 9 億 5600 万ユーロ；2017 年度上半期は 8 億 7800 万ユーロ

⁴ IFRIC 21 に基づく税金および拠出金、および一時項目は、年率換算せず

リテールバンキングおよびサービス事業

国内市場部門

国内市場部門は、当四半期も積極的に事業活動を展開しました。融資残高は、リテールバンキング業務および専門的金融業務（アルバル、リーシング・ソリューションズ）において貸出が順調に伸びたことから、前年同期比 5.2%増加しました。預金残高は全ての国で伸びを示し、当四半期に前年同期比 5.7%増加しました。また、国内市場部門は、プライベート・バンキング業務において 18 億ユーロに上る高水準の資金純流入を記録しました。

国内市場部門は、引き続き新たなカスタマーエクスペリエンスを開発するとともにデジタル変革を推進した結果、D-rating¹ によって、モバイル機能に関してフランス国内で先進的な銀行として格付けされました。国内市場部門は、顧客が自己の様々な資産の概要を閲覧できるようにした、オンラインのアカウントアグリゲーション機能を導入したのに加え、Consorsbank! では電子インボイス決済のアプリ導入で成功を収めることにより（電子インボイスによるオンライン決済は、既に毎月 11,000 件に達しています）、デジタルサービスの使い勝手の良さを急速に高めました。当部門はまた、サービスを様々な形態の銀行業務に適応させました。その成果として、フランス国内では Nickel が力強い事業の伸びを示しました（既に 95 万口座を開設）。一方、ユニバーサルモバイル決済ソリューションである LyfPay は、これまでに 82 万回を超えるダウンロード数を記録し、また 2018 年初以来、同アプリの導入はフランス全国の 500 を超す Casino 店舗へと拡大されました。さらに、国内市場部門は、顧客サービスの質を高めコストを削減するために、国内支店網の合理化と適正規模化を実施中であり、これにより 2018 年末までに、フランス国内リテールバンキングの支店網において地域レベルの管理層を廃止する予定です。

営業収益²は当四半期に 39 億 3800 万ユーロとなり、前年同期と比べて 0.3%の若干の減収でした。その背景には、事業成長による増収効果を、低金利のマイナス影響が依然として上回っている事実があります。

営業費用²は、当四半期に 25 億 2800 万ユーロで前年同期比 1.6%増加しました。専門的金融業務の事業開発による費用の増加傾向を、リテールバンキング支店網の合理化によって平均で 0.5%のコスト削減を達成したことで、一部打ち消した格好となりました。

営業総利益²は、当四半期に前年同期比 3.6%減少して 14 億 1100 万ユーロとなりました。

リスク費用²は前年同期と比べて 42.5%減少しましたが、とりわけ BNL bc での継続的な減少が貢献しました。

以上から、国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、国内市場部門の税引前利益³は当四半期に 11 億 3200 万ユーロに上り、前年同期比 7.6%の増益を果たしました。

2018 年度上半期において、営業収益²は 79 億 700 万ユーロに上り、前年同期と比べて 0.1%の増収でした。その背景には、事業成長による増収効果を、依然として低金利のマイナス影響がほぼ打ち消している事実があります。営業費用²は当上半期に 54 億 9900 万ユーロとなり、前年同期比 2.4%増加しました（IFRIC 21 の影響を除くと+2.1%）。専門的金融業務の事業開発による費用の増加傾向を、リテールバンキング支店網の合理化により平均で 0.3%⁴のコスト削減を達成したことで、一部打ち消した格好となりました。営業総利益²は、前年同期から 5.0%減少して 24 億 800 万ユーロとなりました。リスク費用は前年同期比 29.7%減少しましたが、とりわけ BNL bc での継続的な減少が貢献しました。以上から、国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、国内

¹ デジタルパフォーマンスに特化した格付け機関

² フランス（PEL/CEL の影響を除く）、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクの国内プライベート・バンキングの 100%を含む

³ PEL/CEL の影響を除く：2018 年度第 2 四半期は 100 万ユーロ未満；2017 年度第 2 四半期は+100 万ユーロ

⁴ IFRIC 21 による影響を除く

市場部門の税引前利益¹は当上半期に 17 億 9000 万ユーロに上り、前年同期と比べて 1.7%の増益を果たしました。

フランス国内リテールバンキング (FRB)

フランス国内リテールバンキング (FRB) は、フランスの経済成長を背景に当四半期も積極的に事業活動を展開しました。融資残高は、個人および法人顧客向けの貸付が引き続き伸びたことから、前年同期と比べて 5.8%増加しました。住宅ローンでは、借入れ条件の再交渉や繰り上げ返済が 2017 年 6 月以来急速に減少してきましたが、当四半期もこの傾向が確認されました。預金残高は、当座預金の高い伸びが牽引し、前年同期比 4.8%増加しました。生命保険が当四半期に好業績を上げ、保有契約高は 2017 年 6 月末と比べて 3.4%増加しました。

FRB は当四半期に、BNP パリバ・カーディフと Matmut の業務提携の一環として、新たな損害保険を発売しましたが、2018 年 6 月末現在で既に 3 万件の成約に至っています。目標は、損害保険の契約件数を 3 倍にするとともに、顧客浸透率を 2020 年までに 8%から 12%へと引き上げることです。

営業収益² は当四半期に 15 億 9300 万ユーロとなり、前年同期と比べて 0.8%の減収でした。純利息収入² は、借入れ条件の再交渉や繰り上げ返済違約金の効果が 2017 年度第 2 四半期の高水準から減少したため、融資残高の伸びにも関わらず、当四半期は 1.1%減少しました。一方、手数料収入² は前年同期比 0.5%の若干の減少となりました。

営業費用² は、当四半期に 11 億 400 万ユーロとなり、前年同期と比べて 1.0%減少しましたが、これにはコスト削減策が奏功しました (リテール支店網の規模の適正化および管理体制の合理化)。

これらを受けて、当四半期の営業総利益² は 4 億 8900 万ユーロとなり、前年同期と比べて 0.3%減少しました。

リスク費用² は、前年同期の 8000 万ユーロから減少して当四半期に 5400 万ユーロとなり、顧客向け融資残高の 12bp 相当で極めて低い水準でした。

以上から、フランス国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務 (国際金融サービス部門) へ配分した後、FRB の税引前利益³は当四半期に 3 億 9700 万ユーロとなり、前年同期比 7.1%の増益を果たしました。

2018 年度上半期において、営業収益² は 31 億 8600 万ユーロとなり、前年同期と比べて 1.2%の減収でした。純利息収入² は、借入れ条件の再交渉や繰り上げ返済違約金の効果が 2017 年度上半期の高水準から減少したため、融資残高の伸びにも関わらず、当上半期は前年同期比 1.8%減少しました。一方、手数料収入² は前年同期比 0.5%減少しました。営業費用² は、コスト削減策が奏功し、当上半期に 22 億 9300 万ユーロで前年同期比 0.3%減少しましたが、IFRIC 21 の影響を除くと 0.9%の減少でした。これらを受けて、営業総利益² は当上半期に 8 億 9400 万ユーロとなり、前年同期比 3.6%減少しました。リスク費用² は、前年同期の 1 億 5800 万ユーロから減少して当上半期に 1 億 1300 万ユーロとなり、顧客向け融資残高の 13bp 相当でした。以上から、フランス国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務 (国際金融サービス部門) へ配分した後、FRB の税引前利益¹は当上半期に 7 億 300 万ユーロに上り、前年同期と比べて 1.9%の増益でした。

¹ PEL/CEL の影響を除く：2018 年度上半期は +100 万ユーロ；2017 年度上半期は -100 万ユーロ

² フランス国内プライベート・バンキングの 100%を含む (PEL/CEL の影響を除く)

³ PEL/CEL の影響を除く：2018 年度第 2 四半期は 100 万ユーロ未満；2017 年度第 2 四半期は +100 万ユーロ

BNL バンカ・コメルシアーレ (BNL bc)

BNL バンカ・コメルシアーレ (BNL bc) において、預金残高は当座預金の急増を受けて当四半期に前年同期比 7.0% 増加しました。生命保険の保有契約高は 2017 年 6 月末の水準から 8.3% 増加し、同様に、ミューチュアルファンドの残高は 3.5% 増加しました。さらに、当四半期の融資残高は前年同期との比較で増加幅が 0.2% に過ぎなかったものの、2018 年度第 1 四半期に実施した不良債権ポートフォリオの売却¹ による影響を除くと、当四半期に前年同期 1.3% 増加しました。BNL bc は法人顧客の市場シェアを当四半期も順調に伸ばした結果、過去 3 年の間に占有率が 0.6 ポイント上昇し 5.4%² に達しました。

BNL bc はまた、新たなデジタル技術の利用法を引き続き開発し、Power YOUunit BNL の導入に至りました。これは革新的かつ融通性のあるユニットリンク生命保険であり、カーディフとフィンテックの専門会社である FNZ と共に開発した、高付加価値のデジタル・プラットフォームを通して個人顧客に販売されます。

営業収益³ は、当四半期に前年同期から 4.3% 減少して 6 億 9800 万ユーロとなりました。純利息収入³ は、長引く低金利環境の影響を受けて前年同期比 4.3% 減少しました。手数料収入³ は、当四半期の金融手数料の減少を受けて、前年同期比 4.2% 減少しました。

営業費用³ は、当四半期に 4 億 3800 万ユーロで前年同期比 1.9% 増加しましたが、当四半期に計上されたイタリアの破綻処理基金への追加拠出金 (1100 万ユーロ) の影響を除くと、前年同期比 0.6% の減少となります。これにはコスト抑制効果が反映されています。

これらを受けて、営業総利益³ は当四半期に 2 億 5900 万ユーロとなり、前年同期と比べて 13.2% 減少しました。

リスク費用³ は当四半期も減少を続け (前年同期から 9400 万ユーロ減少)、顧客向け融資残高の 66bp 相当となりました。

以上から、イタリア国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務 (国際金融サービス部門) へ配分した後、BNL bc の税引前利益は当四半期に 1 億 2000 万ユーロとなりました。これは前年同期の税引前利益 (6500 万ユーロ) の 2 倍近い水準であり、BNL bc の収益性が徐々に回復していることが確認されました。

2018 年度上半期において、営業収益³ は前年同期比 3.1% の減収となり、14 億 1100 万ユーロでした。純利息収入³ は、長引く低金利環境の影響で前年同期比 5.5% 減少しました。手数料収入³ は、オフバランス貯蓄商品の開発を受けて前年同期比 0.8% 増加しました。営業費用³ は当上半期に 9 億 1800 万ユーロで前年同期比 2.2% 増加しましたが、IFRIC 21 の影響およびイタリアの破綻処理基金への追加拠出金⁴ を除くと、増加幅は 0.6% に縮小します。これらを受けて、当上半期の営業総利益³ は 4 億 9200 万ユーロとなり、前年同期と比べて 11.6% 減少しました。リスク費用³ は、当上半期に顧客向け融資残高の 76bp 相当となり、引き続き減少しました (2017 年度上半期と比べて 1 億 5300 万ユーロの減少)。以上から、イタリア国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務 (国際金融サービス部門) へ配分した後、BNL bc の税引前利益は当上半期に 1 億 7100 万ユーロに上り、前年同期 (8300 万ユーロ) の 2 倍を越す水準を達成しました。

¹ 不良債権ポートフォリオの売却額は総額 8 億ユーロ

² 2018 年度第 2 四半期における銀行貸付市場のシェア (出所: イタリア銀行協会)

³ イタリア国内プライベート・バンキングの 100% を含む

⁴ 1100 万ユーロを 2018 年度第 2 四半期に拠出

ベルギー国内リテールバンキング (BRB)

ベルギー国内リテールバンキング (BRB) は、引き続き積極的な事業活動を展開しました。融資残高は、法人向け貸出の順調な伸びに加え住宅ローンも伸びたことから、前年同期比 4.5%増加しました。預金残高は、特に当座預金の伸びを受けて、当四半期に 4.6%増加しました。

BRB はまた、デジタルサービスの開発を継続した結果、itsme の認証アプリを利用して Easy Banking モバイルアプリに新たなフィーチャーを付加するとともに、プライベート・バンキングの顧客向けに金融情報を提供する、新しいアプリの MyExperts を導入しました。なお、MyExperts のユーザー数は既に 2 万 2 千人を超えています。

当四半期の営業収益¹は、前年同期比 1.4%減少して 9 億 1700 万ユーロとなりました。純利息収入¹は、融資残高の増加によるプラス効果を低金利環境のマイナス影響が一部打ち消したものの、前年同期比 2.6%増加しました。手数料収入¹は、金融手数料の減少、および、販売ネットワークの開発に関わる独立系代理店への割戻報酬の増加に起因して、前年同期の高水準から 12%の減少となりました。

営業費用¹は、前年同期比 1.4%減少して当四半期は 5 億 5200 万ユーロでしたが、これにはコスト節減策 (リテール支店網の規模の適正化、および管理体制の合理化) が奏功しました。

これらを受けて、営業総利益¹は、当四半期に 3 億 6500 万ユーロで前年同期比 1.5%減少しました。

当四半期のリスク費用¹は、貸倒引当金戻入益が繰入額を上回ったことから、純額で 200 万ユーロの貸倒引当金戻入益が計上されました。なお、前年同期には純額で 2800 万ユーロの貸倒引当金繰入額が計上されており、当四半期のリスク費用は減少しました。

以上から、ベルギー国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務 (国際金融サービス部門) へ配分した後、BRB の税引前利益は当四半期に 3 億 4500 万ユーロに上り、前年同期と比べて 6.0%の増益を果たしました。

2018 年度上半期において、営業収益¹は前年同期比 0.6%減少して 18 億 5100 万ユーロとなりました。純利息収入¹は、融資残高の増加によるプラス効果を低金利環境のマイナス影響が一部打ち消したものの、前年同期比 1.5%増加しました。手数料収入¹は、金融手数料の減少、および、販売ネットワークの開発に関わる独立系代理店への割戻報酬の増加に起因して、前年同期比 6.3%減少しました。営業費用¹は前年同期比 0.4%増加して 13 億 8800 万ユーロとなりましたが、IFRIC 21 の影響を除くと、コスト節減策が奏功し前年同期比 0.7%減少しました。営業総利益¹は当上半期に 4 億 6300 万ユーロとなり、前年同期と比べて 3.2%減少しました。リスク費用¹は、当上半期に極めて低い水準となり 400 万ユーロでした。これに対し、前年同期のリスク費用は 2700 万ユーロでした。以上から、ベルギー国内プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務 (国際金融サービス部門) へ配分した後、BRB の税引前利益は当上半期に 4 億 2400 万ユーロに上り、前年同期比 0.6%の増益となりました (IFRIC 21 の影響を除くと +2.3%)。

¹ ベルギー国内プライベート・バンキングの 100%を含む

その他国内市場部門（アルバル、リーシング・ソリューションズ、個人投資家部門、Nickel、ルクセンブルク国内リテールバンキング）

国内市場部門の専門的金融業務は、以下のように積極的な事業展開を継続しました。アルバルでは、ファイナンスフリートの契約台数が当四半期に **7.4%**増加しました。リーシング・ソリューションズでは、ファイナンスリース残高が前年同期比 **9.2%**¹増加しました。個人投資家部門では、運用資産残高が **2017年6月末**と比べて **9.0%**増加しました。Nickel では、当四半期に **8万5千口**を越す口座が開設され、さらに、5月に導入された **Nickel Chrome** カードは利用者が既に **2万5千人**を超えています。

ルクセンブルク国内リテールバンキング（LRB）では、融資残高が前年同期比 **9.0%**増加しましたが、住宅ローンおよび法人向け貸出の高い伸びがこれを牽引しました。預金残高は、とりわけ法人顧客セグメントで旺盛な資金流入があったため、前年同期比 **14.6%**の増加を果たしました。

その他国内市場部門は引き続きデジタルバンキング・サービスの開発を推し進めましたが、リーシング・ソリューションズが欧州で電子署名サービスの提供を開始したことは特筆に値します。

当四半期において、これら **5**つの業務部門合計の営業収益²は **7億3100万ユーロ**に上り、全体として前年同期比 **6.6%**の増収となりました。これには、連結範囲の変更による影響と事業開発の効果が反映されていました。

営業費用²は、当四半期に前年同期比 **13.3%**増加して **4億3300万ユーロ**となりました。これには連結範囲の変更および事業開発の影響に加え、新たなデジタルサービスの提供開始に関わる費用が負担となりましたが、特にリーシング・ソリューションズでの増加が影響しました。

リスク費用²は、当四半期に前年同期から **100万ユーロ**減少して **2500万ユーロ**となりました。

以上から、ルクセンブルク国内プライベート・バンキング業務の純利益の **3分の1**をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、これら **5**つの業務部門の税引前利益は当四半期に **2億7000万ユーロ**となり、前年同期比 **7.3%**の減益でした。

2018年度上半期において、その他国内市場部門合計の営業収益²は **14億5900万ユーロ**に上り、全体として前年同期比 **7.3%**の増収となりましたが、これには、連結範囲の変更による影響と事業開発の効果が反映されていました。営業費用²は、当上半期に前年同期比 **14.4%**増加して **9億ユーロ**となりました。これには連結範囲の変更および事業開発の影響に加え、新たなデジタルサービスの提供開始に関わる費用が負担となり、特にアルバルおよびリーシング・ソリューションズでの増加が影響しました。当上半期のリスク費用²は、前年同期から **2100万ユーロ**増加して **6000万ユーロ**となりました。これにはとりわけ、アルバルでリスク費用の認識方法の変更により計上された、**1400万ユーロ**に上る一過性の貸倒引当金繰入額が影響していました。以上から、ルクセンブルク国内プライベート・バンキング業務の純利益の **3分の1**をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、これら **5**つの業務部門の税引前利益は当上半期に **4億9100万ユーロ**となり、前年同期比 **13.0%**の減益でした（アルバルで計上された一過性の貸倒引当金繰入額を除くと**-10.6%**）。

*
* *

¹ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

² ルクセンブルク国内プライベート・バンキングの100%を含む

国際金融サービス部門

国際金融サービス部門では、以下のように積極的な事業活動を継続しました。パーソナル・ファイナンス業務および国際リテールバンキング業務¹で、融資残高は当四半期に大幅に増加しました。また、貯蓄型商品および保険業務では、運用資産残高が 2017 年 6 月末の水準から 2.7%増加して、2018 年 6 月末現在は 1 兆 600 億ユーロに上りました。

国際金融サービス部門は、全ての業務部門において積極的にデジタル変革を推進するとともに、新たなテクノロジーを取り入れました。当部門は以下のように様々な方法でカスタマーエクスペリエンスの向上に努めました：パーソナル・ファイナンスでは電子署名サービスの提供を開始しました（その結果、フランス、イタリア、スペインで、既に契約の 72%に電子署名が利用されています）；フランスではオンライン・アンケートを導入したところ、顧客の 8 割超が、返済補償保険の申込で速やかに承認を得られるようになりました；ウェルス・マネジメント業務では、生体認証、電子金庫などの新たなオンライン・フィーチャーの提供を始めました。国際金融サービス部門はまた、以下のように新たなテクノロジーや革新的な商品の開発を継続しました：パーソナル・ファイナンスでは既に 75 台のロボットが稼働しています（管理や報告の自動化、チャットボットなど）；不動産管理部門では Lifizz.fr を導入しましたが、これは職場環境に関わる様々なサービスを法人顧客に提供するウェブサイトであり、サービスプロバイダーの豊富な選択肢が魅力です。

国際金融サービス部門の営業収益は当四半期に 42 億 7900 万ユーロに上り、不利な為替の影響にも関わらず、前年同期比 8.7%の増収を果しました。連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと、営業収益は全ての業務部門で増収となったことから、前年同期比 9.4%の増収となります。これは当事業部門が、BNP パリバ・グループの成長の原動力として役割を果たしている証左といえます。

営業費用は当四半期に 25 億 3400 万ユーロとなり、前年同期比 7.1%増加しましたが、これは順調な事業開発に伴う増加です（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+6.9%）。

営業総利益は当四半期に 17 億 4500 万ユーロに上り、前年同期と比べて 11.3%増加しました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+13.3%）。

リスク費用は 3 億 2600 万ユーロで、当四半期も低水準に留まりました（前年同期から 400 万ユーロ減少）。

以上から、国際金融サービス部門の税引前利益は当四半期に 15 億 2600 万ユーロに上り、前年同期と比べて 8.7%の増益を果しました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+9.6%）。これには当事業部門の収益性の高さが反映されています。

2018 年度上半期において、営業収益は、当上半期中の不利な為替の影響にも関わらず、83 億 3900 万ユーロに上り、前年同期比 6.3%の増収を果しました。なお、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと、当上半期の営業収益は 7.5%の増収となりますが、その背景には積極的な事業活動によって全ての業務部門で増収となったことがあります。営業費用は、事業開発を受けて当上半期に 51 億 4300 万ユーロとなり、前年同期比 5.5%増加しました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+6.0%）。営業総利益は 31 億 9500 万ユーロで、前年同期比 7.5%増加しました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+9.9%）。当上半期のリスク費用は 6 億 9200 万ユーロで、前年同期から 4600 万ユーロ増加しましたが、依然として低水準に留まりました。以上から、国際金融サービス部門の税引前利益は当上半期に 28 億 800 万ユーロに上り、前年同期と比べて 6.9%の増益を果しました（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと+6.2%）。これには当部門が、利益ある事業成長を維持していることが反映されています。

¹ 欧州・地中海沿岸諸国およびバンクウエスト

パーソナル・ファイナンス

パーソナル・ファイナンスは、当四半期も活発な事業活動を展開するとともに、買収した **General Motors Europe** の金融部門¹ の統合を順調に進めました。融資残高は、欧州景気の回復を受けた借入需要の高まりと新たな提携関係の効果により、当四半期に前年同期比 **12.0%**² の増加を果たしました。当部門は、引き続きデジタルサービスの領域拡大や新たなテクノロジーの採用を継続した結果、**Visir** の国際的な導入に至りました。**Visir** はデジタル技術による新たな顧客関係管理 (customer relationship management : CRM) システムであり、既に **2200** 万件を越す月次明細書の発行に利用されています (全体の **72%** に相当)。

パーソナル・ファイナンスの営業収益は、融資残高の増加およびより優良なリスクプロファイルを伴う商品へのシフトが奏功し、当四半期に **13 億 8100** 万ユーロに上り、前年同期比 **13.2%** の増収となりました (連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと **+9.3%**)。とりわけ、イタリア、スペインおよびドイツでの活発な営業活動が、当四半期の増収に貢献しました。

営業費用は、前年同期比 **16.0%** 増加して **6 億 7200** 万ユーロとなりました。なお、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと、営業費用は事業開発を受けて **8.3%** の増加となり、これにより **1** ポイントの正のジョーズ効果² が生み出されました。

これらを受けて、営業総利益は当四半期に **7 億 900** 万ユーロに上り、前年同期と比べて **10.7%** の増益でした。

リスク費用は、当四半期に **2 億 6500** 万ユーロとなり (前年同期は **2 億 2500** 万ユーロ)、前年同期から **4000** 万ユーロ増加しましたが、これは融資残高の増加に起因するものです。当四半期のリスク費用は、顧客向け融資残高の **128bp** 相当で低水準に留まりました (前年同期は **131bp** 相当)。

以上から、パーソナル・ファイナンスの税引前利益は当四半期に **4 億 5000** 万ユーロに上り、前年同期と比べて **1.0%** の増益でした。

2018 年度上半期において、営業収益は、融資残高の増加およびより優良なリスクプロファイルを伴う商品へのシフトが奏功し、前年同期比 **13.0%** の増収を果たし、**27 億 3500** 万ユーロに上りました (連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと **+8.5%**)。とりわけ、イタリア、スペインおよびドイツでの活発な営業活動が、当上半期の増収に貢献しました。営業費用は、当上半期に前年同期比 **15.2%** 増加して **13 億 9700** 万ユーロになりました。なお、連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと、営業費用は事業開発に伴い前年同期比 **7.8%** 増加しました。これらを受けて、当上半期の営業総利益は **13 億 3800** 万ユーロに上り、前年同期比 **10.8%** 増加しました (連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除くと **+9.3%**)。リスク費用は当上半期に **5 億 4100** 万ユーロとなりました (前年同期は **4 億 6500** 万ユーロ)。当上半期のリスク費用は、顧客向け融資残高の **132bp** 相当で低水準に留まりました (前年同期は **138bp** 相当)。以上から、パーソナル・ファイナンスの税引前利益は、順調な事業開発を反映して当上半期に **8 億 2200** 万ユーロに上り、前年同期比 **3.0%** の増益でした。

欧州・地中海沿岸諸国

欧州・地中海沿岸諸国部門は着実な成長を遂げました。融資残高は当四半期に前年同期比 **6.3%**² 増加しました。預金残高は全ての地域で増加を果たし、全体では前年同期比 **9.5%**² 増加しました。当部門は引き続きデジタルバンクの開発を推し進めた結果、トルコでは **Cepteteb** の顧客数が既に **56** 万人に上り、また、ポーランドでは **BGZ Optima** の顧客数が **21 万 7 千人** に上っています。**BGZ BNP** パリバのモバイルフォン向け口座管理アプリである **Gomobile** は、過去 **6** か月間でダウンロード数が **14** 万回を超えており、かかる新デジタルサービスの成功を反映しています。

¹ 買収手続きは 2017 年 10 月 31 日に完了

² 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

営業収益¹は、融資残高の増加および利鞘の改善に加え、手数料収入も高水準で推移したことから、当四半期に 6 億 1400 万ユーロに上り、前年同期と比べて 16.6%²の増収を果たしました。また、営業収益は全ての地域で増収となりました。

営業費用¹は、事業開発に起因して当四半期は 4 億 200 万ユーロで前年同期比 5.3%²増加しました。その結果、大幅な正のジョーズ効果を生み出しました。

リスク費用¹は当四半期に 5500 万ユーロとなり、前年同期の 7000 万ユーロから減少しました。また、当四半期のリスク費用は顧客向け融資残高の 58bp 相当でした。

以上から、トルコのプライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、欧州・地中海沿岸諸国の税引前利益は当四半期に 1 億 9900 万ユーロに上り、前年同期と比べて 53.1%³の大幅増益を果たしました。

2018 年度上半期において、営業収益¹は、融資残高の増加および利鞘の改善に加え、手数料収入も高水準で推移したことから、11 億 9600 万ユーロに上り前年同期と比べて 11.7%²の増収となりました。また、営業収益は全ての地域で増収となりました。営業費用¹は、事業開発に起因して当上半期は 8 億 1800 万ユーロで前年同期比 4.7%²増加しました。その結果、大幅な正のジョーズ効果を生み出しました。リスク費用¹は当上半期に 1 億 2500 万ユーロとなり、前年同期の 1 億 3700 万ユーロから減少しました。また、当上半期のリスク費用は顧客向け融資残高の 65bp 相当でした。以上から、トルコのプライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、欧州・地中海沿岸諸国の税引前利益は当上半期に 3 億 8900 万ユーロに上り、前年同期と比べて 36.4%⁴の大幅増益を果たしました。

バンクウエスト

バンクウエストは、当四半期も積極的な事業展開を継続しました。預金残高は前年同期比 5.5%²増加しました。融資残高は、法人および個人顧客向け貸出が順調に伸びたことから、前年同期比 2.2%²増加しました（2017 年度第 4 四半期に実施した債権の証券化の影響を除くと、前年同期比+3.0%²）。プライベート・バンキング業務の運用資産残高は、2018 年 6 月末現在で 134 億米ドルに上り、2017 年 6 月末の水準と比べて 6.0%²増加しました。

バンクウエストはまた、引き続き業務のデジタル化を拡大した結果、Zelle⁵の導入以来 1 日当たりのモバイル取引が 85%以上も増えました。さらに、バンクウエストはクロスセリング営業を拡大することにより、当四半期中に CIB との協働で既に 29 件の取引を実行しています。また、パーソナル・ファイナンスとの連携で自動車ローン商品の発売が予定されています。

営業収益⁶は、融資残高の増加を受けて当四半期は 7 億 3100 万ユーロに上り、前年同期比 3.9%²の増収となりました。

営業費用⁶は、コスト抑制効果が発揮され 4 億 8800 万ユーロで、前年同期比 2.6%²の増加に留まりました。それにより、当四半期に 1.3 ポイントの正のジョーズ効果²が生み出されました。

リスク費用⁶は、当四半期に 500 万ユーロで極めて低い水準となり（前年同期は 3800 万ユーロ）、顧客向け融資残高の 3bp 相当でした。

¹ トルコのプライベート・バンキングの 100%を含む

² 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

³ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含む場合、為替が不利に動いたことから +31.5%）

⁴ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含む場合、為替が不利に動いたことから +29.6%）

⁵ 米国の銀行コンソーシアムにより開発されたアプリであり、個人ユーザー間の迅速かつ安全な送金を可能にする

⁶ 米国プライベート・バンキングの 100%を含む

以上から、米国プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、バンクウエストの税引前利益は当四半期に 2 億 3200 万ユーロに上り、前年同期比 22.1%¹ の大幅増益を果たしました。これは、バンクウエストが着実に業績を伸ばしていることを反映しています。

2018 年度上半期において、営業収益²は、融資残高の増加を受けて 14 億 1400 万ユーロに上り、前年同期比 3.7%³ の増収となりました。営業費用²は、当上半期に 9 億 8300 万ユーロで前年同期比 2.2%³ の増加に留まりましたが、これにはコスト抑制効果が反映されています（1.5³ ポイントの正のジョーズ効果）。リスク費用²は、前年同期から 3400 万ユーロ減少して 2500 万ユーロとなり、顧客向け融資残高の 8bp 相当でした。以上から、米国プライベート・バンキング業務の純利益の 3 分の 1 をウェルス・マネジメント業務（国際金融サービス部門）へ配分した後、バンクウエストの税引前利益は当上半期に 3 億 9400 万ユーロに上り、前年同期比 16.3%⁴ の大幅増益を果たしました。これは、バンクウエストが着実に業績を伸ばしていることを反映しています。

保険およびウェルス&アセット・マネジメント

保険およびウェルス&アセット・マネジメント部門では、当四半期も事業成長が持続しました。2018 年 6 月末現在、運用資産残高⁵は 1 兆 600 億ユーロに達し、2017 年 6 月末の水準と比べて 2.7%増加しました。また、2017 年 12 月末との比較では、運用資産残高は 0.9%増加しましたが、これには以下の要因が作用していました。(i) 資金純流入額は、134 億ユーロの高水準に達しました。その主な要因として、ウェルス・マネジメントで旺盛な資金流入があり、とりわけアジア、フランスおよびイタリアが貢献しました。アセット・マネジメントでは、特定の顧客が資産運用をインソーシングに切り替えたことに起因して債券運用契約に資金流出が集中しましたが、マネーマーケットファンドへの資金流入がこれを一部打ち消しました。保険部門では、ユニットリンク保険へ集中的に高い資金流入がありました。(ii) また、当四半期は+15 億ユーロに上る為替の影響を受けました（特に 2018 年初からのユーロ安が影響）。(iii) これらを一部打ち消す形で、不利な市場の展開を受けて -68 億ユーロのパフォーマンス効果がありました。

2018 年 6 月末現在、運用資産残高⁵の部門別内訳は以下のとおりでした：アセット・マネジメントは 4190 億ユーロ；ウェルス・マネジメントは 3730 億ユーロ；保険部門は 2400 億ユーロ；不動産管理部門は 290 億ユーロ。

保険部門は当四半期も事業開発を推し進めた結果、Matmut との合併会社である Cardif IARD を通して、新たな損害保険を発売しました。かかる新商品はフランス国内リテールバンキングの支店網を通して販売され、2018 年 6 月末現在で既に 3 万件の成約に至るという好スタートを切りました。保険部門はまた、21 世紀に必要なとされる教育プログラムを提供する、米国のスペシャリスト企業であるゼネラル・アセンブリー（General Assembly）とグローバルな提携関係を結び、未来型職業に備えて従業員の教育を始めました。

保険部門の営業収益は当四半期に 7 億 3500 万ユーロに上り、前年同期比 18.7%の増収を果たしました。その背景には積極的な営業活動がありましたが、とりわけ国際的な営業活動が貢献しました。また、当四半期に高水準の実現益が計上されたことも増収要因となりました。営業費用は、事業開発を受けて当四半期に 3 億 4200 万ユーロとなり、前年同期比 15.2%増加しました。以上から、当四半期の税引前利益は、保険部門の好業績を反映して 4 億 4000 万ユーロに上り、前年同期と比べて 17.1%の増益を果たしました。

ウェルス&アセット・マネジメント部門は、引き続き事業開発を推し進めました。不動産管理部門では順調な事業成長が持続し、とりわけドイツおよびフランスでアドバイザー業務が伸びました。アセット・マネジメント部門は当四半期も新商品の開発を進めた結果、中小企業向け資金提供で新たなプライベート・デッ

¹ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含む場合、為替が不利に動いたことから+12.2%）

² 米国プライベート・バンキングの 100%を含む

³ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

⁴ 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く（連結範囲の変更および為替レート変動による影響を含む場合、為替が不利に動いたことから+2.7%）

⁵ 分配金を含む

トのプラットフォームとして、**SME Alternative Financing**を導入しました。ウェルス・マネジメント部門は、**WealthBriefing Awards 2018**において「欧州の最優秀プライベート・バンク賞」を2年連続で受賞しました。

ウェルス&アセット・マネジメント部門の営業収益は、全体的な好業績を反映して、当四半期に8億3400万ユーロに上り、前年同期比9.8%の増収となりました。営業費用は、6億3900万ユーロで前年同期比12.8%増加しました。なお、アセット・マネジメントで計上された特定の事業改編費用、および、不動産管理部門による**Strutt & Parker**の買収に関わる費用を除くと、当四半期の営業費用の増加幅は10.9%に留まります。以上より、国内市場部門、トルコおよび米国からプライベート・バンキング業務の純利益の3分の1を配分された後、ウェルス&アセット・マネジメント部門の税引前利益は当四半期に2億600万ユーロとなり、前年同期比8.9%の減益となりましたが、一時項目の影響¹を除くと前年同期比1.2%の増益となります。

2018年度上半期において、保険部門の営業収益は、積極的な事業活動および高水準の実現益を反映して13億9700万ユーロに上り、前年同期比14.8%の増収でした。営業費用は、事業開発を受けて7億1000万ユーロとなり、前年同期比13.9%増加しました。以上から、関連会社の増益を考慮した後、保険部門の税引前利益は、自己の好業績を反映して当上半期に8億1000万ユーロに上り、前年同期比15.4%の増益を果たしました。

ウェルス&アセット・マネジメント部門の営業収益は、全体的な好業績を反映して、当上半期は16億3000万ユーロに上り、前年同期比6.3%の増収でした。営業費用は12億5300万ユーロで前年同期比9.7%増加しました。なお、アセット・マネジメントで計上された特定の事業改編費用、および、不動産管理部門による**Strutt & Parker**の買収に関わる費用を除くと、当上半期の営業費用の増加幅は7.8%に留まります。当上半期のリスク費用は軽微でしたが、これに対し前年同期は純額で1800万ユーロの貸倒引当金戻入益が計上されました。以上より、国内市場部門、トルコおよび米国からプライベート・バンキング業務の純利益の3分の1を配分された後、ウェルス&アセット・マネジメント部門の税引前利益は当上半期に3億9200万ユーロとなり、前年同期比11.4%の減収でした（一時項目の影響¹を除くと-3.9%）。

*
* *

ホールセールバンキング事業 (CIB)

ホールセールバンキング事業 (CIB) は当四半期に、欧州で2017年度第2四半期と比べて不利な市場環境で事業活動を行いました。

CIBの営業収益は当四半期に29億7900万ユーロとなり、前年同期比6.8%の減収でした。ただし、不利な為替の影響、および、2017年度第2四半期にコーポレートバンキングで計上した譲渡益の影響を除くと、減収幅は1.6%へと縮小します。

グローバルマーケット部門の営業収益は当四半期に14億4700万ユーロとなり、前年同期比5.0%の減収でした。その背景には、2018年度第1四半期同様、FICC²業務が欧州で不利な市場環境に直面したことがありますが、このマイナス影響を一部打ち消す形で、株式およびプライムサービス業務では取引が高水準で推移しました。これを受けて、FICC²業務の営業収益は当四半期に7億2900万ユーロとなり、取引が活発であった前年同期と比べて17.4%減少しました。金利業務では欧州において顧客の動きが鈍く、また、為替およびクレジット業務でも当四半期の不利な市場環境に悩まされました。それでもグローバルマーケット部門は、ユーロ建て全債券で2018年初から第1位を保持し、また全国際債券で第8位にランクインすることにより、債券引受業務における強固な地位を確認しました。また当部門は、**Global Capital Bond Awards 2018**において5部門で受賞することにより、その専門的技術が高く評価されました。株式およびプライムサービス業務の営業収益は、当四半期に7億1800万ユーロに上り、前年同期比12.1%の急増を果たしました。これにはとりわけ、株式デリバティブ業務で顧客の取引ボリュームが高水準で推移したことに加え、プライム

¹ 2017年度第2四半期に売却した建物に関わる譲渡益、アセット・マネジメント部門における特定の事業改編プロジェクトに関わる費用、および不動産管理部門による**Strutt & Parker**の買収に関わる費用

² Fixed Income, Currencies and Commodities (債券・通貨・コモディティ)

サービス業務の事業開発が功を奏したことが貢献しました。また、Exane BNP Paribas¹の事業の好調さは、当四半期に欧州の株式リサーチおよび仲介業務において、2018年 Extel ランキングで2年連続の第1位に輝いたことに表れています。市場リスクを測定するバリュー・アット・リスク (VaR) は、当四半期も依然として低水準に留まり2400万ユーロでした。

セキュリティーズ・サービス部門の営業収益は、活発な営業活動および新規獲得マndेटからの増収効果で、当四半期に5億1700万ユーロに上り、前年同期と比べて3.9%の増収となりました。カスタディ業務の受託資産および管理資産残高は2017年6月末比で2.0%増加し、また、取引件数は2017年度第2四半期から5.9%増加しました。当部門は引き続き大型マndेटを獲得し、特に当四半期に発表されたDWSとの重大な契約は、ドイツおよびルクセンブルクにおいて2400億ユーロに上る資産に関わるものです。当部門はデジタル変革を推し進めた結果、既に30の自動化されたプロセスが構築段階にあり、さらに44のプロセスを開発中です。当部門はまた、他の市場関係者との協働で、ブロックチェーンに関するいくつかのプロジェクトを実施しましたが、とりわけ中小型株の取引(LiquidShare)やファンドの販売(PlanetFunds)を容易にする技術で成果を上げました。

コーポレートバンキング部門の営業収益は、当四半期に10億1500万ユーロとなり、前年同期と比べて13.7%の減収でした。ただし、不利な為替の影響および前年同期に計上された譲渡益の影響を除くと、減収幅は1.7%に留まります。コーポレートバンキング部門は当四半期に、相次ぐ新規株式公開の延期が特に響いて、欧州市場で大型案件の減少に直面しましたが、一方、南北アメリカおよびアジア太平洋地域では堅調な業績を収めました。当部門はまた、引き続きトランザクションバンキング業務(キャッシュマネジメントおよびトレードファイナンス)で順調に開発を推し進めました。融資残高は当四半期に1320億ユーロに上り、前年同期比4.6%²増加しました。預金残高は、当四半期に1220億ユーロとなり、前年同期比6.7%²減少しました。当部門は業界におけるリーダー的地位を確認するとともに、シンジケートローンでEMEA³地域における第1位を獲得しました。さらに、当部門はデジタル変革を推し進め、TradelXの少数株主となりました。なおTradelXは、ブロックチェーン技術に基づくオープン・マルチバンク・トレードファイナンス・プラットフォームを開発した企業です。

CIBの営業費用は当四半期に19億7000万ユーロとなり、前年同期と比べて0.9%減少しました。当四半期の営業費用の減少にはコスト削減計画が奏功していますが、同計画によって2016年の始動以来、既に累計で3億5900万ユーロの費用が節減されています。CIBは当四半期も引き続きコスト削減策を実施した結果、認識された200のプロセスのうち既に80以上が自動化されており、また、4つのエンドツーエンド・プロジェクト(与信審査プロセス、為替・キャッシュ、クライアント・オンボーディング、およびファンド管理)が実施されています。

これらを受けて、CIBの営業総利益は当四半期に10億900万ユーロとなり、前年同期比16.6%減少しました。

リスク費用は引き続き低水準に留まり、当四半期は純額で2300万ユーロの貸倒引当金繰入額が計上されました。それでも、純額で1億1800万ユーロに上る高水準の貸倒引当金戻入益が計上された前年同期からは増加しました。なお、当四半期のリスク費用には、グローバルマーケット部門で計上された、純額で3700万ユーロの貸倒引当金繰入額(前年同期は純額で3900万ユーロの戻入益)に加え、コーポレートバンキング部門で計上された、純額で1300万ユーロの貸倒引当金戻入益(前年同期は純額で7800万ユーロの戻入益)が反映されています。

以上から、CIBの税引前利益は当四半期に9億9600万ユーロとなり、譲渡益および多額の貸倒引当金戻入益の恩恵を受けた前年同期と比べて26.2%の減益となりましたが、それでも直近の四半期やそれ以前の四半期と比べて大幅に回復しました。

2018年度上半期において、CIBの営業収益は58億8500万ユーロとなり、前年同期比8.3%の減収でした。なお、不利な為替の影響および2017年度第2四半期にコーポレートバンキング部門で計上された譲渡益の影響を除くと、減収幅は4.4%へと縮小します。グローバルマーケット部門の営業収益は当上半期に29億4500万ユーロとなり、前年同期と比べて10.1%の減収でした。その要因として、比較対象となる2017年

¹ 持分法適用会社

² 連結範囲の変更および為替レート変動による影響を除く

³ Europe, Middle East and Africa (欧州、中東およびアフリカ)

度上半期が高水準であったことに加え、2018 年上半期の欧州市場が FICC¹業務にとって不利な環境であったことが挙げられます。それを受けて FICC¹の営業収益は当上半期に 15 億 3500 万ユーロとなり、取引が大きなボリュームを伴い高水準であった 2017 年度上半期と比べて 25.4%減少しました。株式およびプライムサービス業務の営業収益は当上半期に 14 億 1000 万ユーロに上り、前年同期比 15.6%の急増を果たしました。これにはとりわけ、株式デリバティブ業務で顧客の取引が持ち直したことに加え、プライムブローカレッジ業務の開発が順調に進んだことが貢献しました。セキュリティーズ・サービス部門の営業収益は、当上半期に 10 億 2200 万ユーロで前年同期比 4.8%の増収でした。これには極めて活発な営業活動に加え、新規獲得マndेटからの増収効果が貢献しました。コーポレートバンキング部門の営業収益は、当上半期に 19 億 1900 万ユーロとなり、前年同期比 11.5%の減収でしたが、不利な為替の影響および 2017 年度第 2 四半期に計上された譲渡益の影響を除くと、減収幅は 2.5%へと縮小します。コーポレートバンキング部門は当上半期に、相次ぐ新規株式公開の延期が特に響いて、欧州市場で大型案件の減少に直面しましたが、一方、南北アメリカおよびアジア太平洋地域では堅調な業績を収めました。当部門はまた、引き続きトランザクションバンキング業務（キャッシュマネジメントおよびトレードファイナンス）の開発を推し進めました。

CIB の営業費用は当上半期に 43 億 6000 万ユーロとなり、前年同期から 3.0%減少しました（IFRIC 21 の影響を除くと -4.1%）。

これらを受けて、CIB の営業総利益は、当上半期に 20.8%減少して 15 億 2600 万ユーロとなりました。リスク費用は、貸倒引当金繰入額を戻入益が上回ったことから、純額で 800 万ユーロの貸倒引当金戻入益が計上されました。それでも、純額で 1 億 7200 万ユーロに上る多額の貸倒引当金戻入益が計上された前年同期との比較では、当上半期のリスク費用は増加しました。なお、当上半期のリスク費用には、グローバルマーケット部門で計上された純額で 900 万ユーロの貸倒引当金繰入額（前年同期は純額で 3600 万ユーロの戻入益）に加え、コーポレートバンキング部門で計上された純額で 1400 万ユーロの貸倒引当金戻入益（前年同期は純額で 1 億 3500 万ユーロの戻入益）が反映されています。以上から、CIB の税引前利益は当上半期に 15 億 5400 万ユーロとなり、譲渡益や多額の貸倒引当金戻入益の恩恵を受けて極めて高水準であった前年同期と比べて 26.9%の減益でした。CIB は当上半期に税引前利益の想定自己資本利益率で 17.7%²を達成しましたが、これは CIB の財務資源に対する厳しい管理体制の成果といえます。

*
* *

コーポレート・センター

コーポレート・センターの営業収益は当四半期に 1 億 5600 万ユーロとなり、これに対し前年同期の営業収益は 300 万ユーロでした。なお、前年同期の営業収益には一時項目として、当グループ自身の債務に伴う信用リスクを反映するための調整額（Own Credit Adjustment: OCA）およびデリバティブに関わる債務評価調整額（Debt Value Adjustment: DVA）が合計で -2 億ユーロ含まれていたのに加え、ユーロネクスト株の売却に関わる譲渡益 +8500 万ユーロが含まれていました。

営業費用は当四半期に 4 億 900 万ユーロとなり、これに対し前年同期は 3 億ユーロでした。当四半期の営業費用には一時項目として、2 億 6700 万ユーロの事業改編費用（前年同期は 1 億 5300 万ユーロ）に加え、買収³に関わる事業再編費用 800 万ユーロ（前年同期は 1500 万ユーロ）が含まれていました。

リスク費用は当四半期に 1300 万ユーロとなりました（前年同期は 9400 万ユーロ）。

当四半期の営業外項目は 6500 万ユーロの利益でした（前年同期は 4600 万ユーロの利益）。

以上から、コーポレート・センターの税引前損益は当四半期に 2 億 100 万ユーロの損失となりましたが、これに対し前年同期は 3 億 4600 万ユーロの損失でした。

¹ Fixed Income, Currencies and Commodities（債券・通貨・コモディティ）

² 年率換算後の上半期の税引前利益に基づき算定

³ 特に LaSer、BGZ 銀行、DAB バンク、および General Electric LLD が影響

2018 年度上半期において、コーポレート・センターの営業収益は 1 億 6700 万ユーロとなり、これに対し前年同期は 3 億 6000 万ユーロでした。なお、前年同期の営業収益には一時項目として、新韓金融持株会社株およびユーロネクスト株の売却による譲渡益が 合計で+2 億 3300 万ユーロ含まれていたことに加え、当グループ自身の債務に伴う信用リスクを反映するための調整額（Own Credit Adjustment: OCA）およびデリバティブに関わる債務評価調整額（Debt Value Adjustment: DVA）が合計で -2 億 700 万ユーロ含まれていました。また、当上半期の営業収益には、プリンシパル・インベストメンツからの利益貢献が、前年同期の高水準から減少したことが反映されています。営業費用は当上半期に 7 億 8400 万ユーロとなり、これに対し前年同期は 6 億 800 万ユーロでした。当上半期の営業費用には一時項目として、4 億 7300 万ユーロの事業改編費用（前年同期は 2 億 4300 万ユーロ）に加え、買収¹に関わる事業再編費用 1300 万ユーロ（前年同期は 3600 万ユーロ）が含まれていました。リスク費用は当上半期に 2500 万ユーロとなりました（前年同期は 1 億 600 万ユーロ）。当上半期の営業外項目は 1 億 9700 万ユーロの利益でした（前年同期は 5700 万ユーロの利益）。当上半期の営業外項目には、建物の売却による譲渡益 1 億 100 万ユーロが一時項目として含まれていました。以上から、コーポレート・センターの税引前損益は当上半期に 4 億 4400 万ユーロの損失となりましたが、これに対し前年同期は 2 億 9600 万ユーロの損失でした。

*
* *

財務構造

当グループのバランスシートは極めて盤石です。

バーゼル 3 全面適用のエクイティ Tier 1 比率²は、2018 年 6 月末現在で 11.5%となり、2018 年 3 月末の水準から 10bp 低下しました。配当性向 50%を前提とした当四半期の株主帰属純利益による貢献（+15bp）は、為替の影響およびオペレーショナルリスクを除くリスク加重資産の増加による影響（-15bp）で相殺されました。なお、オペレーショナルリスクに関わるリスク加重資産については、標準的手法の水準まで高めていません（-10bp）。為替およびその他の要素がエクイティ Tier 1 比率に及ぼす影響は限定的です。

バーゼル 3 全面適用のレバレッジ比率³は Tier 1 資本全部に基づき算定されますが、同比率は 2018 年 6 月末現在で 4.0%となりました。

流動性カバレッジ比率は、2018 年 6 月末現在で 111%でした。

当グループの即時利用可能な余剰資金は、2018 年 6 月末現在で 3080 億ユーロに上りました。これは短期資金調達との関係で、1 年超の余裕資金があることを意味します。

当グループの自己資本に関わる比率の推移は、当グループが規制枠組のなかで、規律をもってバランスシートを管理する能力を有していることを証明しています。

*
* *

¹ 特に LaSer、BGZ 銀行、DAB バンク、および General Electric LLD が影響

² 経過措置なしで全ての資本要求指令 4（CRD4）規則を考慮した比率。また、欧州議会・理事会規則（EU）No 575/2013 第 26 条第 2 項に従う。IFRS 9 の初度適用による影響は十分に考慮済み

³ 2019 年に完全施行される CRD4 規則を経過措置なしで全て考慮し、また 2014 年 10 月 10 日付けの欧州委員会（EC）委任法令に基づき算定された比率

以上の決算内容について、ジャン＝ローラン・ボナフェ最高経営責任者は次のように述べています。

「BNP パリバは、当四半期に株主帰属純利益で24 億ユーロを上げる着実な業績を収めました。

当四半期の不利な為替の影響や前年同期と比べて低迷した金融市場にも関わらず、欧州経済が成長するなか、専門的金融業務が牽引役となり、営業収益は当四半期に増収を果たしました。

当グループは、デジタル変革や新たなカスタマーエクスペリエンスを提供するための計画を、積極的に実施しています。

このような好業績の達成を可能にした BNP パリバの全従業員の貢献に感謝の意を表します。」

連結損益計算書

	2Q18	2Q17	2Q18 / 2Q17	1Q18	2Q18 / 1Q18	1H18	1H17	1H18 / 1H17
<i>(単位：百万ユーロ)</i>								
営業収益	11,206	10,938	+2.5%	10,798	+3.8%	22,004	22,235	-1.0%
営業費用および減価償却費	-7,368	-7,071	+4.2%	-8,260	-10.8%	-15,628	-15,190	+2.9%
営業総利益	3,838	3,867	-0.7%	2,538	+51.2%	6,376	7,045	-9.5%
リスク費用	-567	-662	-14.4%	-615	-7.8%	-1,182	-1,254	-5.7%
営業利益	3,271	3,205	+2.1%	1,923	+70.1%	5,194	5,791	-10.3%
持分法適用会社投資損益	132	223	-40.8%	162	-18.5%	294	388	-24.2%
その他営業外項目	50	33	+51.5%	171	-70.8%	221	36	n.s.
営業外項目	182	256	-28.9%	333	-45.3%	515	424	+21.5%
税引前利益	3,453	3,461	-0.2%	2,256	+53.1%	5,709	6,215	-8.1%
法人税	-918	-943	-2.7%	-558	+64.5%	-1,476	-1,695	-12.9%
少数株主帰属純利益	-142	-122	+16.4%	-131	+8.4%	-273	-230	+18.7%
株主帰属純利益	2,393	2,396	-0.1%	1,567	+52.7%	3,960	4,290	-7.7%
コスト/インカム率	65.8%	64.6%	+1.2 pt	76.5%	-10.7 pt	71.0%	68.3%	+2.7 pt

BNP パリバの2018年度第2四半期に関わる財務情報の開示は、本プレスリリースに含まれています。法令上要求される開示情報は全て、登録書類を含めて、<http://invest.bnpparibas.com>の「Results (業績)」セクションからオンラインで入手可能であり、フランスの通貨金融法典L.451-1-2条およびフランス金融市場庁(Autorité des Marchés Financiers)の一般規則第222-1条以降の規定に従い、BNP パリバが公表しています。

2018年度第2四半期 - コア事業別業績

	国内市場部門	国際金融サービス部門	ホールセールバンキング事業	事業部門合計	その他業務	グループ合計
<i>(単位：百万ユーロ)</i>						
営業収益	3,792	4,279	2,979	11,050	156	11,206
	対前年同期比	+8.7%	-6.8%	+1.0%	n.s.	+2.5%
	対前四半期比	+5.4%	+2.5%	+2.4%	n.s.	+3.8%
営業費用および減価償却費	-2,454	-2,534	-1,970	-6,959	-409	-7,368
	対前年同期比	+7.1%	-0.9%	+2.8%	+36.6%	+4.2%
	対前四半期比	-2.9%	-17.5%	-11.8%	+9.4%	-10.8%
営業総利益	1,338	1,745	1,009	4,091	-253	3,838
	対前年同期比	+11.3%	-16.6%	-1.7%	-14.7%	-0.7%
	対前四半期比	+20.2%	+95.0%	+41.0%	-30.2%	+51.2%
リスク費用	-205	-326	-23	-554	-13	-567
	対前年同期比	-1.2%	n.s.	-2.5%	-85.9%	-14.4%
	対前四半期比	-10.6%	n.s.	-8.3%	+16.9%	-7.8%
営業利益	1,133	1,418	986	3,538	-267	3,271
	対前年同期比	+14.6%	-25.7%	-1.6%	-31.9%	+2.1%
	対前四半期比	+30.6%	+79.9%	+54.0%	-28.8%	+70.1%
持分法適用会社投資損益	-3	109	7	113	19	132
その他営業外項目	1	-1	3	4	46	50
税引前利益	1,132	1,526	996	3,654	-201	3,453
	対前年同期比	+8.7%	-26.2%	-4.0%	-41.7%	-0.2%
	対前四半期比	+19.1%	+78.3%	+46.3%	-17.0%	+53.1%

	国内市場部門	国際金融サービス部門	ホールセールバンキング事業	事業部門合計	その他業務	グループ合計
<i>(単位：百万ユーロ)</i>						
営業収益	3,792	4,279	2,979	11,050	156	11,206
	前年同期	3,803	3,935	3,197	10,935	3
	前四半期	3,820	4,060	2,906	10,787	11
営業費用および減価償却費	-2,454	-2,534	-1,970	-6,959	-409	-7,368
	前年同期	-2,417	-2,367	-1,988	-6,771	-300
	前四半期	-2,888	-2,609	-2,389	-7,886	-374
営業総利益	1,338	1,745	1,009	4,091	-253	3,838
	前年同期	1,387	1,568	1,209	4,164	-297
	前四半期	933	1,451	517	2,901	-363
リスク費用	-205	-326	-23	-554	-13	-567
	前年同期	-356	-331	118	-568	-94
	前四半期	-269	-365	31	-604	-11
営業利益	1,133	1,418	986	3,538	-267	3,271
	前年同期	1,031	1,237	1,328	3,596	-391
	前四半期	664	1,086	548	2,297	-374
持分法適用会社投資損益	-3	109	7	113	19	132
	前年同期	21	153	5	179	44
	前四半期	-6	137	9	140	22
その他営業外項目	1	-1	3	4	46	50
	前年同期	1	14	15	31	2
	前四半期	1	58	2	61	110
税引前利益	1,132	1,526	996	3,654	-201	3,453
	前年同期	1,053	1,405	1,349	3,807	-346
	前四半期	659	1,281	558	2,498	-242
法人税						-918
少数株主帰属純利益						-142
株主帰属純利益						2,393

2018 年度上半期 - コア事業別業績

		国内市 場部門	国際金融サ ービス部門	ホールセ ールバン キング事 業	事業部門 合計	その他 業務	グループ 合計
<i>(単位：百万ユーロ)</i>							
営業収益		7,613	8,339	5,885	21,837	167	22,004
	対前年同期比	+0.0%	+6.3%	-8.3%	-0.2%	-53.5%	-1.0%
営業費用および減価償却費		-5,342	-5,143	-4,360	-14,844	-784	-15,628
	対前年同期比	+2.4%	+5.5%	-3.0%	+1.8%	+28.9%	+2.9%
営業総利益		2,271	3,195	1,526	6,992	-616	6,376
	対前年同期比	-5.2%	+7.5%	-20.8%	-4.1%	n.s.	-9.5%
リスク費用		-474	-692	8	-1,157	-25	-1,182
	対前年同期比	-29.8%	+7.2%	-95.4%	+0.8%	-76.7%	-5.7%
営業利益		1,797	2,504	1,534	5,835	-641	5,194
	対前年同期比	+4.5%	+7.6%	-26.9%	-5.0%	+81.3%	-10.3%
持分法適用会社投資損益		-8	246	15	253	41	294
その他営業外項目		2	58	5	65	156	221
税引前利益		1,791	2,808	1,554	6,153	-444	5,709
	対前年同期比	+1.9%	+6.9%	-26.9%	-5.5%	+49.7%	-8.1%
法人税							-1,476
少数株主帰属純利益							-273
株主帰属純利益							3,960

連結四半期業績の推移

(単位：百万ユーロ)	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
グループ						
営業収益	11,206	10,798	10,532	10,394	10,938	11,297
営業費用および減価償却費	-7,368	-8,260	-7,621	-7,133	-7,071	-8,119
営業総利益	3,838	2,538	2,911	3,261	3,867	3,178
リスク費用	-567	-615	-985	-668	-662	-592
営業利益	3,271	1,923	1,926	2,593	3,205	2,586
持分法適用会社投資損益	132	162	175	150	223	165
その他営業外項目	50	171	21	230	33	3
税引前利益	3,453	2,256	2,122	2,973	3,461	2,754
法人税	-918	-558	-580	-828	-943	-752
少数株主帰属純利益	-142	-131	-116	-102	-122	-108
株主帰属純利益	2,393	1,567	1,426	2,043	2,396	1,894
コスト/インカム率	65.8%	76.5%	72.4%	68.6%	64.6%	71.9%

(単位：百万ユーロ)	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
リテールバンキングおよびサービス事業 PEL/CELの影響を除く						
営業収益	8,071	7,879	7,881	7,707	7,737	7,719
営業費用および減価償却費	-4,988	-5,497	-5,101	-4,854	-4,784	-5,305
営業総利益	3,082	2,383	2,780	2,853	2,953	2,414
リスク費用	-531	-634	-722	-662	-686	-634
営業利益	2,551	1,748	2,058	2,191	2,267	1,780
持分法適用会社投資損益	107	132	147	162	174	139
その他営業外項目	0	59	55	361	16	11
税引前利益	2,658	1,939	2,261	2,714	2,457	1,930
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	53.0	52.8	51.4	50.9	50.7	50.6

(単位：百万ユーロ)	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
リテールバンキングおよびサービス事業						
営業収益	8,071	7,880	7,894	7,714	7,738	7,717
営業費用および減価償却費	-4,988	-5,497	-5,101	-4,854	-4,784	-5,305
営業総利益	3,083	2,384	2,793	2,860	2,955	2,412
リスク費用	-531	-634	-722	-662	-686	-634
営業利益	2,552	1,749	2,071	2,198	2,269	1,778
持分法適用会社投資損益	107	132	147	162	174	139
その他営業外項目	0	59	55	361	16	11
税引前利益	2,659	1,940	2,273	2,721	2,458	1,927
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	53.0	52.8	51.4	50.9	50.7	50.6

(単位：百万ユーロ)	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
国内市場部門（フランス、イタリア、ベルギーおよびルクセンブルクのプライベート・バンキングの100%を含む）* PEL/CELの影響を除く						
営業収益	3,938	3,969	3,897	3,918	3,951	3,952
営業費用および減価償却費	-2,528	-2,971	-2,653	-2,599	-2,488	-2,880
営業総利益	1,411	998	1,244	1,319	1,463	1,072
リスク費用	-204	-270	-370	-311	-355	-319
営業利益	1,206	727	874	1,008	1,108	753
持分法適用会社投資損益	-3	-6	7	23	21	11
その他営業外項目	1	1	1	3	1	5
税引前利益	1,205	723	882	1,034	1,130	769
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-73	-65	-70	-64	-78	-61
国内市場部門税引前利益	1,132	658	812	970	1,052	707
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	24.7	24.4	24.6	24.3	24.1	23.8

(単位：百万ユーロ)	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
国内市場部門（フランス、イタリア、ベルギー、ルクセンブルクのプライベート・バンキングの2/3を含む）						
営業収益	3,792	3,820	3,768	3,786	3,803	3,807
営業費用および減価償却費	-2,454	-2,888	-2,582	-2,524	-2,417	-2,799
営業総利益	1,338	933	1,185	1,262	1,387	1,008
リスク費用	-205	-269	-369	-310	-356	-319
営業利益	1,133	664	817	952	1,031	689
持分法適用会社投資損益	-3	-6	7	22	21	11
その他営業外項目	1	1	1	3	1	5
税引前利益	1,132	659	825	977	1,053	705
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	24.7	24.4	24.6	24.3	24.1	23.8

* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む

(単位: 百万ユーロ)	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
フランス国内リテールバンキング (フランス国内プライベート・バンキングの 100%を含む) *						
営業収益	1,593	1,595	1,554	1,592	1,607	1,618
うち受取利息純額	875	891	888	904	886	909
うち手数料	718	704	665	688	721	708
営業費用および減価償却費	-1,104	-1,189	-1,175	-1,183	-1,116	-1,184
営業総利益	489	406	379	409	492	434
リスク費用	-54	-59	-107	-65	-80	-79
営業利益	435	347	272	344	412	355
営業外項目	1	0	0	1	0	0
税引前利益	437	346	272	344	412	356
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-39	-39	-38	-36	-40	-39
フランス国内リテールバンキング税引前利益	397	307	234	309	372	316
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	9.3	9.2	9.4	9.4	9.3	9.2

(単位: 百万ユーロ)	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
フランス国内リテールバンキング (フランス国内プライベート・バンキングの 100%を含む) * PEL/CELの影響を除く**						
営業収益	1,593	1,594	1,541	1,585	1,606	1,620
うち受取利息純額	875	890	876	897	885	912
うち手数料	718	704	665	688	721	708
営業費用および減価償却費	-1,104	-1,189	-1,175	-1,183	-1,116	-1,184
営業総利益	489	405	366	402	490	436
リスク費用	-54	-59	-107	-65	-80	-79
営業利益	435	346	259	337	411	358
営業外項目	1	0	0	1	0	0
税引前利益	436	345	259	337	411	358
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-39	-39	-38	-36	-40	-39
フランス国内リテールバンキング税引前利益	397	306	221	302	371	319
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	9.3	9.2	9.4	9.4	9.3	9.2

(単位: 百万ユーロ)	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
フランス国内リテールバンキング (フランス国内プライベート・バンキングの 2/3を含む)						
営業収益	1,517	1,517	1,481	1,518	1,531	1,541
営業費用および減価償却費	-1,068	-1,151	-1,140	-1,145	-1,079	-1,146
営業総利益	449	367	341	374	452	395
リスク費用	-53	-59	-107	-65	-80	-79
営業利益	396	307	234	308	372	316
営業外項目	1	0	0	0	0	0
税引前利益	397	307	234	309	372	316
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	9.3	9.2	9.4	9.4	9.3	9.2

* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の 100% を含む

** PEL/CEL に関わる引当金: 当該引当金は、フランス国内リテールバンキングの収益に影響を及ぼすものであり、住宅積立預金口座 (Plans Epargne Logement: PEL) および住宅預金口座 (Comptes Epargne Logement: CEL) から生じるリスクについて、口座の存続期間全体にわたり設定されている

(単位: 百万ユーロ)	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
PEL/CELの影響	0	1	13	7	1	-2

(単位: 百万ユーロ)	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
BNLバンカ・コメルシアーレ (イタリア国内プライベート・バンキングの100%を含む) *						
営業収益	698	713	732	719	729	727
営業費用および減価償却費	-438	-480	-457	-445	-430	-469
営業総利益	259	233	275	274	299	258
リスク費用	-127	-169	-218	-203	-222	-228
営業利益	132	63	57	71	77	30
営業外項目	-1	0	0	0	0	0
税引前利益	130	63	57	71	77	30
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-10	-12	-11	-9	-12	-12
BNLバンカ・コメルシアーレ税引前利益	120	51	46	63	65	18
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	5.5	5.4	5.8	5.8	5.7	5.7
BNLバンカ・コメルシアーレ (イタリア国内プライベート・バンキングの2/3を含む)						
営業収益	675	691	710	699	707	706
営業費用および減価償却費	-427	-470	-447	-434	-420	-460
営業総利益	248	221	263	265	287	247
リスク費用	-127	-170	-217	-203	-222	-228
営業利益	122	51	46	62	65	18
営業外項目	-1	0	0	0	0	0
税引前利益	120	51	46	63	65	18
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	5.5	5.4	5.8	5.8	5.7	5.7
ベルギー国内リテールバンキング (ベルギー国内プライベート・バンキングの100%を含む) *						
営業収益	917	934	894	921	930	931
営業費用および減価償却費	-552	-835	-601	-570	-560	-823
営業総利益	365	99	293	351	370	108
リスク費用	2	-6	-15	-23	-28	1
営業利益	367	93	278	328	343	109
持分法適用会社投資損益	1	-3	2	17	6	-4
その他営業外項目	0	1	1	3	2	0
税引前利益	368	92	281	347	351	106
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-23	-13	-19	-18	-25	-10
ベルギー国内リテールバンキング税引前利益	345	79	262	329	325	96
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	5.6	5.6	5.3	5.2	5.2	5.1
ベルギー国内リテールバンキング (ベルギー国内プライベート・バンキングの2/3を含む)						
営業収益	872	887	849	879	882	889
営業費用および減価償却費	-529	-803	-577	-547	-537	-790
営業総利益	344	85	272	332	346	99
リスク費用	0	-4	-14	-23	-28	1
営業利益	344	80	259	309	317	99
持分法適用会社投資損益	1	-3	2	17	6	-4
その他営業外項目	0	1	1	3	2	0
税引前利益	345	79	262	329	325	96
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	5.6	5.6	5.3	5.2	5.2	5.1

* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む

(単位：百万ユーロ)

	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
ルクセンブルクを含むその他国内市場部門(ルクセンブルク国内プライベート・バンキングの100%を含む)*						
営業収益	731	728	730	692	686	674
営業費用および減価償却費	-433	-467	-420	-400	-382	-405
営業総利益	298	261	310	292	304	269
リスク費用	-25	-36	-30	-19	-26	-14
営業利益	273	225	279	273	278	256
持分法適用会社投資損益	-3	-2	5	5	14	14
その他営業外項目	0	-1	0	0	0	5
税引前利益	271	223	284	277	292	274
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-1	-1	-1	-1	-1	-1
その他国内市場部門税引前利益	270	222	283	277	291	274
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	4.3	4.2	4.0	3.9	3.9	3.9

(単位：百万ユーロ)

	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
ルクセンブルクを含むその他国内市場部門(ルクセンブルク国内プライベート・バンキングの2/3を含む)						
営業収益	728	725	727	690	683	671
営業費用および減価償却費	-431	-464	-419	-399	-381	-403
営業総利益	297	260	309	291	303	269
リスク費用	-25	-36	-30	-19	-26	-14
営業利益	272	225	278	272	277	255
持分法適用会社投資損益	-3	-2	5	5	14	14
その他営業外項目	0	-1	0	0	0	5
税引前利益	270	222	283	277	291	274
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	4.3	4.2	4.0	3.9	3.9	3.9

* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む

(単位：百万ユーロ)	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
国際金融サービス部門						
営業収益	4,279	4,060	4,126	3,928	3,935	3,909
営業費用および減価償却費	-2,534	-2,609	-2,519	-2,330	-2,367	-2,506
営業総利益	1,745	1,451	1,608	1,598	1,568	1,404
リスク費用	-326	-365	-353	-352	-331	-315
営業利益	1,418	1,086	1,254	1,246	1,237	1,089
持分法適用会社投資損益	109	137	141	140	153	128
その他営業外項目	-1	58	54	358	14	6
税引前利益	1,526	1,281	1,449	1,744	1,405	1,222
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	28.3	28.3	26.8	26.5	26.6	26.7
パーソナル・ファイナンス						
(単位：百万ユーロ)	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
営業収益	1,381	1,354	1,280	1,222	1,220	1,201
営業費用および減価償却費	-672	-725	-639	-575	-579	-634
営業総利益	709	629	641	647	641	568
リスク費用	-265	-276	-271	-273	-225	-240
営業利益	443	353	369	375	415	328
持分法適用会社投資損益	8	15	19	21	30	20
その他営業外項目	-2	4	0	24	0	5
税引前利益	450	373	389	420	445	353
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	7.1	7.0	5.8	5.5	5.4	5.3
欧州・地中海沿岸諸国部門（トルコ国内プライベート・バンキングの100%を含む）*						
(単位：百万ユーロ)	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
営業収益	614	581	581	573	590	592
営業費用および減価償却費	-402	-416	-414	-403	-420	-424
営業総利益	212	165	167	170	170	168
リスク費用	-55	-70	-62	-60	-70	-67
営業利益	157	96	105	110	100	101
持分法適用会社投資損益	43	41	49	47	53	48
その他営業外項目	-1	54	3	1	-1	0
税引前利益	199	191	158	159	152	150
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-1	-1	-1	0	-1	-1
欧州・地中海沿岸諸国税引前利益	199	191	157	158	151	149
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	4.8	4.8	4.9	5.0	5.0	5.0
欧州・地中海沿岸諸国部門（トルコ国内プライベート・バンキングの2/3を含む）						
(単位：百万ユーロ)	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
営業収益	612	579	579	571	588	590
営業費用および減価償却費	-401	-415	-413	-401	-419	-423
営業総利益	211	164	167	170	169	167
リスク費用	-55	-70	-62	-60	-70	-67
営業利益	156	95	105	110	99	100
持分法適用会社投資損益	43	41	49	47	53	48
その他営業外項目	-1	54	3	1	-1	0
税引前利益	199	191	157	158	151	149
配賦資本（十億ユーロ、年初来）	4.8	4.8	4.9	5.0	5.0	5.0

* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む

(単位: 百万ユーロ)	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
バンクウェスト (米国プライベート・バンキングの100%を含む) *						
営業収益	731	683	738	734	762	761
営業費用および減価償却費	-488	-495	-483	-482	-513	-556
営業総利益	243	188	255	251	249	205
リスク費用	-5	-20	-20	-32	-38	-22
営業利益	239	168	235	219	211	183
持分法適用会社投資損益	0	0	0	0	0	0
その他営業外項目	0	0	1	3	1	-1
税引前利益	239	168	236	222	212	182
ウェルス&アセット・マネジメントに配分される利益	-7	-6	-6	-5	-5	-5
バンクウェスト税引前利益	232	162	230	217	206	177
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	6.0	5.9	6.4	6.4	6.6	6.7
(単位: 百万ユーロ)	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
バンクウェスト (米国プライベート・バンキングの2/3を含む)						
営業収益	716	669	724	720	748	748
営業費用および減価償却費	-480	-487	-475	-474	-505	-548
営業総利益	236	182	249	246	243	200
リスク費用	-5	-20	-20	-32	-38	-22
営業利益	232	162	229	214	206	178
営業外項目	0	0	1	3	1	-1
税引前利益	232	162	230	217	206	177
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	6.0	5.9	6.4	6.4	6.6	6.7
(単位: 百万ユーロ)	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
保険部門						
営業収益	735	661	636	662	619	597
営業費用および減価償却費	-342	-367	-317	-311	-297	-326
営業総利益	393	294	319	351	322	271
リスク費用	1	0	5	1	-1	-1
営業利益	394	294	324	352	321	271
持分法適用会社投資損益	46	75	53	63	55	54
その他営業外項目	0	0	49	325	0	1
税引前利益	440	369	425	740	376	326
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	8.5	8.7	7.8	7.7	7.7	7.8
(単位: 百万ユーロ)	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
ウェルス&アセット・マネジメント部門						
営業収益	834	795	907	753	760	773
営業費用および減価償却費	-639	-614	-675	-569	-567	-576
営業総利益	195	181	233	183	193	198
リスク費用	-2	0	-5	12	4	14
営業利益	193	181	228	195	197	212
持分法適用会社投資損益	12	5	19	8	15	5
その他営業外項目	1	0	1	5	14	0
税引前利益	206	187	248	208	226	217
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9	1.9

* プライベート・バンキングの営業収益から税引前利益に至る表示項目の100%を含む

(単位：百万ユーロ)	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
ホールセールバンキング事業 (CIB)						
営業収益	2,979	2,906	2,626	2,658	3,197	3,223
営業費用および減価償却費	-1,970	-2,389	-1,883	-1,897	-1,988	-2,506
営業総利益	1,009	517	744	761	1,209	717
リスク費用	-23	31	-264	10	118	54
営業利益	986	548	480	772	1,328	770
持分法適用会社投資損益	7	9	13	-2	5	8
その他営業外項目	3	2	-1	8	15	0
税引前利益	996	558	491	778	1,349	778
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	20.3	19.9	21.1	21.4	21.9	22.1
コーポレートバンキング部門						
(単位：百万ユーロ)	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
営業収益	1,015	904	1,050	948	1,176	991
営業費用および減価償却費	-596	-691	-603	-546	-590	-691
営業総利益	418	213	447	402	586	299
リスク費用	13	1	-209	4	78	57
営業利益	431	214	238	407	664	356
営業外項目	7	9	5	6	19	7
税引前利益	438	223	243	413	683	364
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	12.0	11.9	12.4	12.5	12.7	12.6
グローバル・マーケット部門						
(単位：百万ユーロ)	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
営業収益	1,447	1,498	1,073	1,234	1,523	1,754
うち FICC	729	805	592	801	883	1,174
うち株式およびプライムサービス	718	692	482	433	640	580
営業費用および減価償却費	-955	-1,275	-875	-958	-997	-1,424
営業総利益	492	223	198	276	526	330
リスク費用	-37	28	-57	6	39	-3
営業利益	455	251	142	281	565	327
持分法適用会社投資損益	1	1	5	-6	-1	0
その他営業外項目	1	0	1	6	3	0
税引前利益	457	252	147	281	567	326
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	7.4	7.1	7.8	8.0	8.4	8.7
セキュリティーズ・サービス部門						
(単位：百万ユーロ)	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
営業収益	517	505	503	476	498	478
営業費用および減価償却費	-419	-423	-405	-392	-400	-390
営業総利益	98	82	98	84	97	87
リスク費用	2	1	2	0	1	0
営業利益	100	83	100	84	99	87
営業外項目	1	0	0	0	0	0
税引前利益	101	83	100	84	99	88
配賦資本 (十億ユーロ、年初来)	0.9	0.8	0.9	0.9	0.9	0.8

(単位：百万ユーロ)	2Q18	1Q18	4Q17	3Q17	2Q17	1Q17
コーポレート・センター						
営業収益	156	11	12	22	3	358
営業費用および減価償却費	-409	-374	-637	-382	-300	-308
うち事業再編費用および変革費用	-275	-211	-456	-222	-168	-110
営業総利益	-253	-363	-625	-361	-297	49
リスク費用	-13	-11	1	-16	-94	-11
営業利益	-267	-374	-625	-377	-391	38
持分法適用会社投資損益	19	22	15	-10	44	19
その他営業外項目	46	110	-33	-139	2	-8
税引前利益	-201	-242	-642	-525	-346	49

代替的な業績指標 (ALTERNATIVE PERFORMANCE MEASURES: APM) フランス金融市場庁 (AMF) の一般規則第 223-1 条にもとづく開示

代替的な業績指標	定義	使用理由
事業部門営業収益	国内市場部門、国際金融サービス部門、ホールセールバンキング事業の営業収益の合計 (なお、国内市場部門の営業収益には、フランス、イタリア、ベルギー、ルクセンブルクのプライベート・バンキングの 2/3 を含む) BNP パリバ・グループ営業収益 = 事業部門営業収益 + コーポレート・センター営業収益 調整後のグループ営業収益は「コア事業別業績」の表で表示	BNP パリバ・グループの業績を表す指標
PEL/CEL の影響を除く営業収益	PEL/CEL による影響を除く営業収益 調整後のグループ営業収益は「連結四半期業績の推移」の表で表示	PEL/CEL 口座から発生するリスクに対して、口座の存続期間全体にわたり引当金が設定されるが、これらの変動が及ぼす影響を除いた上で、当期の営業収益を表す指標
プライベート・バンキングの 100%を含む リテールバンキング事業の損益計算書	リテールバンキング事業の損益計算書であり、プライベート・バンキング業務の損益計算書の全部を含む 調整後のグループ営業収益は「連結四半期業績の推移」の表で表示	リテールバンキング事業の業績を表す指標であり、プライベート・バンキングの業績の全部を含む (プライベート・バンキングは、リテールバンキング (2/3) とウェルス・マネジメント (1/3) の共同責任のもとに置かれるが、ウェルス&アセット・マネジメントに損益を配分する前である)
IFRIC 第 21 号の影響を除く営業費用の推移	IFRIC21 に係る税金および拠出金の影響を排除した、営業費用の推移 IFRIC21 による影響の詳細は、決算資料の「IFRIC 第 21 号に基づく税金および拠出金の内訳」にて開示	IFRIC21 に係る税金および拠出金の影響を除く、第 1 四半期営業費用の推移を表す指標 (各事業年度に発生するほぼ全額を、上半期に計上)
リスク費用:期首顧客向け貸出金残高 (単位:bp)	リスク費用(単位:百万ユーロ)を期首の顧客向け貸出金残高で除したもの 詳細な算定方法については、決算資料に添付された「貸出金残高に関わるリスク費用」にて開示	事業体が負うリスクレベルの指標であり、貸出金残高を分母として算定し、%で表示
一時項目を除く株主帰属純利益	一時項目を除いて算定された株主帰属純利益 一時項目の詳細については、決算資料に添付された「主な一時項目」にて開示	多額の非経常的項目あるいは本業の業績を反映しない項目を排除した、BNP パリバ・グループの純利益を表す指標。排除される項目の主なものに、事業改編および再編費用がある
自己資本利益率 (ROE)	ROE の詳細な算定方法については、決算資料に添付された「自己資本利益率および永久株主資本」にて開示	BNP パリバ・グループの自己資本利益率を表す指標
有形自己資本利益率 (ROTE)	ROTE の詳細な算定方法については、決算資料に添付された「自己資本利益率および永久株主資本」にて開示	BNP パリバ・グループの有形自己資本利益率を表す指標

比較分析 - 連結範囲の変更および為替レート変動による影響の排除

連結範囲の変更による影響を排除するための方法は、買収、売却など、取引の形態に依る。その計算の根本的な目的は、期間比較可能性を確保することにある。

- 一 企業を買収または新設した場合、当該企業の業績は、同企業が過年度に未だ買収あるいは設立されていなかった期間に対応する分について、連結範囲の変更による影響を除く当会計年度の期間から排除する。
- 一 事業売却の場合、当該事業体の業績は、売却以降の期間に対応する過年度の四半期について対称的に排除する。
- 一 連結の会計処理方法を変更した場合、同一条件の下に調整した四半期業績に対して、2 会計年度（当期および前期）の間で存在した最も低い持分比率を適用する。

為替レート変動による影響を除いた比較分析においては、前年度の四半期（比較対象となる四半期）業績を、当四半期（分析対象となる四半期）の為替レートで修正再表示する。これらの計算は全て、会社の報告通貨を基準に行う。

注：

営業費用： 従業員給与および従業員給付制度に関わる費用、その他経費、有形固定資産の減価償却費、無形固定資産の償却費、および不動産・機械設備を含む固定資産の減損などの総額を指す。本資料全体にわたり、「営業費用」および「費用」は特に区別することなく使われている

事業部門： 以下の 3 部門から成る：

- **国内市場部門：** フランス国内リテールバンキング（FRB）、BNL バンカ・コメルシアレ（BNL bc）、ベルギー国内リテールバンキング（BRB）、その他国内市場部門（アルバル、リーシング・ソリューションズ、個人投資家部門、Nickel、ルクセンブルク国内リテールバンキング（LRB））を含む
- **国際金融サービス部門（IFS）：** 欧州・地中海沿岸諸国、バンクウェスト、パーソナル・ファイナンス、保険、ウェルス&アセット・マネジメント（WAM）を含む。WAM には、アセット・マネジメント、ウェルス・マネジメント、および不動産管理部門が含まれる
- **ホールセールバンキング事業（CIB）：** コーポレートバンキング部門、グローバルマーケット部門、セキュリティーズ・サービス部門を含む

堅調な業績	2
リテールバンキングおよびサービス事業	5
国内市場部門	5
国際金融サービス部門	10
ホールセールバンキング事業 (CIB)	14
コーポレート・センター	16
財務構造	17
連結損益計算書	19
2018 年度第 2 四半期 – コア事業別業績	20
2018 年度上半期 – コア事業別業績	21
連結四半期業績の推移	22
代替的な業績指標 (ALTERNATIVE PERFORMANCE MEASURES: APM) フランス金融市場庁 (AMF) の一般規則第 223-1 条にもとづく開示	31

本プレスリリースに含まれる数値は、未監査の数値です。2018 年度に関わる財務諸表は、国際財務報告基準 (IFRS) の改訂基準である IFRS 第 9 号「金融商品」に基づき作成されていますが、過年度の数値については、同基準が認めるように、当グループは修正再表示を行わないことにしました。

本プレスリリースには、将来の事象に関する現在の見解および見通しに基づいた予測的な記述が含まれています。予測的な記述には、財務上の予測や見積りおよびその基礎となる仮定、将来の事象、事業活動、商品およびサービスに関連する計画、目標および見通しに関する記述、ならびに将来の業績およびシナジーに関する記述があります。予測的な記述は将来の業績を保証するものではなく、BNP パリバとその子会社および出資先企業にまつわる固有リスク、不確実性および仮定によって左右されるものです。さらには、BNP パリバとその子会社の事業展開、銀行業界のトレンド、将来の設備投資および買収、グローバルもしくは BNP パリバの主要地域市場における経済状況の変化、市場競争ならびに規制といった要因にも左右されます。これらの事象はいずれも不確実なものであり、現在の見通しとは異なる結果と、ひいては現在の見通しとは大きく異なる業績をもたらす可能性があります。実際の業績は、予測的な記述において見積りまたは示唆されたものとは大きく異なる可能性があります。本プレスリリースに含まれるいかなる予測的な記述も本プレスリリース発行日現在の予測であり、BNP パリバは、新たな情報や将来の事象によって、予測的な記述を公に修正もしくは更新する責任を負いません。これに関連して、「監督上の検証・評価プロセス (Supervisory Review and Evaluation Process: SREP)」は欧州中央銀行 (ECB) により毎年実施されますが、BNP パリバ・グループが満たすべき所要資本比率は毎年修正される可能性があることに留意が必要です。

本プレスリリースに含まれる BNP パリバ以外の第三者に関わる情報もしくは外部の情報源から入手した情報は、その真実たることを独立に確認したものではありません。ここに記載の情報や意見に関して、表示または保証を表現あるいは示唆してはおらず、またその公正性、正確性、完全性または正当性に関しては確実なものではありません。BNP パリバもしくはその代表者ともに、いかなる過失に対しても責任を負わず、また本プレスリリースあるいはその内容の使用により生ずる、もしくは本プレスリリースやここに記載の情報や資料に関連して生じる、いかなる損失に対しても責任を負いません。

表中および分析において掲載された数値は四捨五入のため、内訳の合計と総数に若干の差異が生じる場合があります。